

新刊書紹介

ミニ山野草図鑑—離弁花編—

廣田伸七／編



「ミニ雑草図鑑」をご存じの方は、本誌の読者にはたくさんいらっしゃることだろう。このたび、この姉妹編として「ミニ山野草図鑑—離弁花編—」が出版された。

「ミニ雑草図鑑」は水田、水路・休耕田・水湿地、畑地、果樹園・非農耕地に生える、いわゆる人里植物を中心としたもので、雑草防除に携わる方々に広く受け入れられ、さらには自然観察を目的とする植物愛好家の方々にも愛用されるようになって、1996年の初版以来11刷を重ねてきたロングセラーである。

一方で、1990年には「日本原色雑草図鑑」の姉妹編に当る大著「日本山野草・樹木生態図鑑—シダ類・裸子植物・被子植物（離弁花）編—」が出版され、植物専門家を中心に愛用されてきたが、同書は長らく品切れ状態にあった。このような事情から、「日本山野草・樹木生態図鑑」を簡便化し、より安価で入手しやすいミニ版への要望が高まっていた。これに呼応して出版されたのが、ここでご紹介する「ミニ山野草図鑑—離弁花編—」である。

「ミニ山野草図鑑—離弁花編—」は、底本となる「日本山野草・樹木生態図鑑—シダ類・裸子植物・被子植物（離弁花）編—」から、山野草（草本類）と低木・雑かん木類を選んで編集

し、同書より解説を要約してまとめ上げたもので、さらに最近多い帰化植物を加え、670余種が掲載されている。

人里植物は「ミニ雑草図鑑」、丘陵地・高原・山地の植物は「ミニ山野草図鑑」という構図が見えてくるが、これら両環境に生える植物には、もちろん共通種も多い。この点について、本書はミニ雑草図鑑の姉妹編という性格を強く持つことから、すでにミニ雑草図鑑に掲載されている草本類は省略し、その旨を本文中に記すことで両書間の重複を避けている。

このところ、山野草はちょっとしたブームの観があって、書名に山野草を冠する本が多数出版されているようであるが、それらと比べた本書のいちばんの特長は、低木・雑かん木が掲載されていることであろう。本書にはヤドリギ科、アケビ科、ツヅラフジ科、コショウ科、ウマノスズクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、トウダイグサ科、ミカン科、ドクウツギ科、ウルシ科、ニシキギ科、ミツバウツギ科、ツゲ科、ブドウ科、ジンチョウゲ科、グミ科、キブシ科、ミズキ科、ウコギ科の低木・雑かん木140種が掲載され、検索しやすいように低木・雑かん木専用の目次が全体の目次とは別に付されている。低木・雑かん木はミニ雑草図鑑にも掲載されていないので、本書はミニ雑草図鑑の読者の要望にも的確にお答えできるだろう。ちなみにミニ雑草図鑑と本書を合わせると1,100余種が掲載されていることになり、手軽に雑草調べができる図鑑の分野がぐっと広がったといえる。またミニ雑草図鑑の姉妹編という性格を反映し、和名索引にはミニ雑草図鑑の掲載種も一緒に取り上げられていて便利である。

定価 3,045 円（税込）、発売：全国農村教育協会（TEL03-3839-9160, FAX03-3833-1665, メール hon@zennokyo.co.jp）。